

# 『キリストの埋葬』

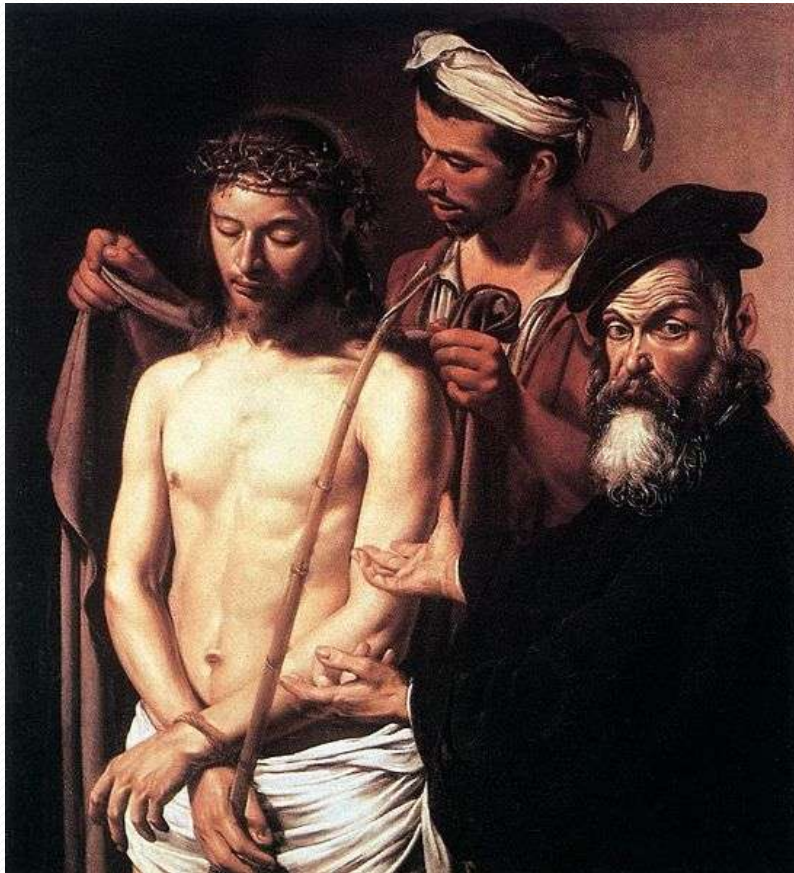
(1602年 - 1603年)



- すっかり夕方になった。その日は備えの日、すなわち安息日の前日であったので、<sup>43</sup> アリマタヤのヨセフは、思い切ってピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願った。ヨセフは有力な議員であり、みずからも神の国を待ち望んでいた人であった。<sup>44</sup> ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いて、百人隊長を呼び出し、イエスがすでに死んでしまったかどうかを問いただした。<sup>45</sup> そして、百人隊長からそうと確かめてから、イエスのからだをヨセフに与えた。
  - <sup>46</sup> そこで、ヨセフは亜麻布を買い、イエスを取り降ろしてその亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納めた。墓の入口には石をころがしかけておいた。<sup>47</sup> マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスの納められる所をよく見ていた。マコ 15:42-1
- マタ27, 57-61
  - ルカ23, 50-55
  - ヨハ19, 38-42

# 『Ecce Homo』

(1605年)



- ところでピラトは、その祭りには、人々の願う囚人をひとりだけ赦免するのを例としていた。
- 7 たまたま、バラバという者がいて、暴動のとき人殺しをした暴徒たちといっしょに牢に入っていた。<sup>8</sup> それで、群衆は進んで行って、いつものようにしてもらうことを、ピラトに要求し始めた。<sup>9</sup> そこでピラトは、彼らに答えて、「このユダヤ人の王を釈放してくれというのか」と言った。<sup>10</sup> ピラトは、祭司長たちが、ねたみからイエスを引き渡したことに、気づいていたからである。<sup>11</sup> しかし、祭司長たちは群衆を扇動して、むしろバラバを釈放してもらいたいと言わせた。<sup>12</sup> そこで、ピラトはもう一度答えて、「ではいったい、あなたがたがユダヤ人の王と呼んでいるあの人を、私にどうせよというのか」と言った。<sup>13</sup> すると彼らはまたも「十字架につけろ」と叫んだ。<sup>14</sup> だが、ピラトは彼らに、「あの人がどんな悪い事をしたというのか」と言った。しかし、彼らはますます激しく「十字架につけろ」と叫んだ。<sup>15</sup> それで、ピラトは群衆のきげんをとろうと思い、バラバを釈放した。そして、イエスをむち打って後、十字架につけるようにと引き渡した。

• マコ15:6-15

• マタ27, 11-26 ; ルカ23, 13-25 ; ヨハ19, 4-16



# 『イエス、むつ打たれる』 (1607-9年)



- そこで、ピラトはイエスを捕らえて、むち打ちにした。 ヨハ 19:1

# イエス、いばらの冠をかぶせられる

(1607年)



- 兵士たちはイエスを、邸宅、すなわち総督官邸の中に連れて行き、全部隊を呼び集めた。<sup>17</sup> そしてイエスに紫の衣を着せ、いばらの冠を編んでかぶらせ、<sup>18</sup> それから、「ユダヤ人の王さま。ばんざい」と叫んであいさつをし始めた。<sup>19</sup> また、葦の棒でイエスの頭をたたいたり、つばきをかけたり、ひざまずいて拝んだりしていた。<sup>20</sup> 彼らはイエスを嘲弄したあげく、その紫の衣を脱がせて、もとの着物をイエスに着せた。それから、イエスを十字架につけるために連れ出した。

- マコ15:16-20

- マタ27, 27-31; ヨハ19, 1-3